

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2005-240049 (P2005-240049A)  
【公開日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)  
【年通号数】公開・登録公報 2005-035  
【出願番号】特願 2005-155523 (P2005-155523)  
【国際特許分類第 7 版】  
C 0 8 L 71/02  
【F I】  
C 0 8 L 71/02

【手続補正書】  
【提出日】平成 17 年 6 月 3 日 (2005.6.3)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】特許請求の範囲  
【補正対象項目名】全文  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】  
【請求項 1】

全分子末端基の 50% 以上が加水分解性ケイ素基である分子量 8000 ~ 30000 の高分子重合体 (I)、および高分子重合体 (I) 100 重量部に対し、全分子末端基の 50% 未満が加水分解性ケイ素基である分子量 4000 ~ 30000 の高分子重合体 (II) 1 ~ 200 重量部を含有する室温硬化性組成物。

【請求項 2】

高分子重合体 (I) の主鎖および高分子重合体 (II) の主鎖がともに本質的にポリエーテルである請求項 1 の室温硬化性組成物。

【請求項 3】

室温硬化性組成物が実質的に可塑剤を含有しない、請求項 1 または 2 に記載の室温硬化性組成物。

【請求項 4】

全分子末端基の 50% 以上が加水分解性ケイ素基である分子量 8000 ~ 30000 の高分子重合体 (I) 100 重量部に対し、全分子末端基の 50% 未満が加水分解性ケイ素基である分子量 4000 ~ 30000 の高分子重合体 (II) 1 ~ 200 重量部を混合することを特徴とする室温硬化性組成物の製造方法。